（様式２）

令和5年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
高3	川崎総合科学高等学校全日制	濱野 雄功

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・真理を探究し、高邁な人格の育成に努める。 ・教養を高め、豊かな創造力と健全な批判力の育成に努める。 ・専門の知識と技術を習得し、勤労を愛する精神の育成に努める。 ・身心を鍛錬し、明朗にして良識ある社会人の育成に努める。	(1)教職員の資質・能力の向上 (2)学校の組織力・チーム力の強化 (3)学習指導・生活指導・進路指導の一体化 (4)外部との連携の推進

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	学習指導	本校に求められる学力を目標化し、理解の定着と学力の伸長を目指した授業の工夫と改善を図る。 各科の特性を踏まえ、実践力と意識の伸長を目指した専門教育を推進する。	学力の定着や将来を見据え、学力向上委員会を中心とした計画的な取り組みを行い、専門的な知識や技術の向上に努めた。また本校の専門教育の将来像を探る中で課題意識が高まっている。	生徒・保護者の専門教育への高い意識に応える授業づくりに取り組む。 各科・各教科が専門性を追求し、それを支える基礎学力や学ぶ意欲の伸長を図る取組を継続する。
2	生徒指導	特別活動の充実を図り、生徒の自主性・主体性の育成を図る。 規範意識を育て、規律ある学校生活の充実を図るとともに、いじめを許さない環境作りに努める。	生徒会行事の充実を目指し、活動を工夫することで、学級活動、学年行事等も活性化している。 「いじめに関する実態調査」を行い定期的・継続的にいじめを許さない雰囲気や、情報収集と迅速な対応ができるシステムを構築している。	一人ひとりの人格を尊重し個性の伸張を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目標とする。 生徒からの声や教育相談に対し適切に機能する組織作り、環境作りを継続する。
3	教育相談、支援教育、人権尊重教育	すべての教育活動において、人権尊重教育を推進し、生徒の相互理解を促進する。 生徒理解の姿勢に立って向き合い、社会性、思いやり、生命尊重の心等の道徳性の伸張を図る。 特別な教育ニーズを持つ生徒への理解を深め、個を大切にした指導の充実を図る。	多様化する価値観を尊重し、自らの気持ちを伝え良好な関係を築いていけるように教師側からの働きかけを積極的に行った。 特別支援教育への理解が深まり、個々の状況に応じた相談や支援が行われている。引き続き組織的な対応についても研修していく必要がある。	引き続き教員の研修に人権感覚を養うことに力を入れていく。 生徒の困り感に寄り添い、情報の共有化と目標をもって具体的な支援につなげるためのケース会議を開催するなど、校内組織体制、研修機会の構築・活性化をさらに推進する。
4	健康管理、安全管理、環境整備	生徒の健康・安全を守る教職員の意識を高め、事故の防止を図る。 学校生活の充実を図るために、学校全体の環境整備に取り組む。	スマートフォン等の端末の利用については依存度が年々増加し、長時間利用に対して健康面での指導が必要である。 防災に関する意識付けを継続していくとともに、対応した環境整備を進めていく必要性がある。	生活習慣を自律的に管理できることを目標に、家庭とも連携しながら取り組む努力を継続する。 適切な避難行動を当たり前にできることを目的とした避難訓練を継続する。
5	進路指導	生徒・保護者・教師の連携のとれた指導体制の充実を図り、生徒の将来目標の具体化・明確化を促進し、希望の進路実現を果たす。	多様な進路に対応するべく進路指導部を中心とした計画的で、具体的な取り組みが継続され、各科・学年と連携をとることにより成果をあげている。	進路指導計画、企業訪問、職場体験などの実施、就職者、公務員受験者、進学者への細やかな対応等、進路指導部の取り組みが継続できる環境整備が必要である。
6	保護者・地域との連携、学校運営	学校教育が円滑に機能するような組織運営を図る。 外部との連携を重視した開かれた学校づくりを推進するとともに学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の学校教育への参画と理解を図る。	指導力向上に向け、授業および教育活動におけるICT活用に関する校内研修に取り組んだ。 引き続き教職員間で共通理解を深める必要がある。 地域社会の行事に積極的に参加している。	研修への参加体制を確保し、研修を受けた教師からの伝達・共有を図り、全体の指導力向上に繋げていく。 学校の魅力を充分に伝えられるよう、より良い情報発信を目指す。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
学校教育推進会議において、地域清掃活動や地域行事への積極的な参加等といった地域に貢献している事実は、もっと情報発信すべきであるとのご意見をいただいた。	ICTを活用した授業および教育活動について、基本的な取組は定着してきたので、更に発展的な取組を目指していく。 支援の必要な生徒に対して丁寧に寄り添った対応をしているが、これまで以上に目を配るとともに組織的に取り組んでいきたい。 様々な外部連携を実施してきたが、引き続き積極的に取り組み、生徒へ刺激を与え活性化を図っていきたい。